

令和元年度

第3回香美市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会議事録（概要）

次 第

日 時：令和2年3月10日（火）午後3時～午後4時

場 所：香美市役所3階会議室

出席者：まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会委員 15名

定住推進課長、健康介護支援課長、防災対策課長、商工観光課2名、教育振興課2名、
農林課2名、企画財政課3名

欠席者：1名

会 長：清原泰治委員

各担当課出席職員自己紹介

会長あいさつ

【議 題】

1. 第2期香美市まち・ひと・しごと創生総合戦略の修正案について
事務局より「第2回審議会からの意見と回答」の説明を行う。

<基本目標3>KPI「全国学力・学習状況調査」についての質問と回答について

・前回の質問は、学力テストの結果を評価指標に用いるのは収まりが良くないのではとの懸念と、いろいろな行政分野で目標の数字を追いかけて結果に執着してしまう場合があり、とりわけ教育分野でそうした設定をすると大きな過ちを犯すのではないかという懸念からだが、回答の内容が少し違っている。学力の評価の仕方は単純ではなく、「全国平均のプラス5」などでどういう評価ができるのかという疑問もある。

→学力観が大きく変化しており、学力テストでも経験や体験に関係づけられた設問がなされ、これに取り組むことが学力向上、ひいては探求学習の成果につながるのと担当課の見解である。総合戦略は数値化することになっており、このような設定となっている。

・学力テストの結果が高い県が必ずしも大学入試センター試験の結果が高い訳ではなく、テストの点数の高さとその教科に対する子どもの関心の高さが必ずしも相関していないという結果も出ており、学力の捉え方は一様ではないことをしっかりと押さえてほしい。

・まだバカロレア教育も始めたばかりで、どういう視点で評価するのも手探りの状態と思われ、今の段階では致し方ないのでは。バカロレア教育はこのような指標で計れるものではなく、これから教育が進んでいく中で適切な指標を取り入れていってもらったら。

・「教育環境の充実」の「環境」とは学力向上のためにいろんなものが整備されていることで、例えばPCの数や図書資料、ICT支援員の雇用人数などが具体的な要素になり、学力・学習調査を数値目標に設定するのはあくまで成果であり、環境の整備に直結しておらず、どういうものの数値化が妥当か次年度に向けて継続して検討していただければ。

- ・県の総合戦略（主に産業振興計画）に「Society5.0」や「SDG s」が入っており、各市町村でも冒頭の基本施策に「多様な人材の活躍を推進する」と「Society5.0」「SDG s」の文言が入っているところが多い。本市の総合戦略も冒頭の考え方のところに入れて、関連する箇所ではこれらの用語を使う形でまとめ直しを行っている。（清原会長）

<基本目標1>

○P7「②観光振興策の実施」

- ・横断的目標として「Society5.0」を入れるのは良いと思うが、それぞれの基本目標の中で「Society5.0を推進し」というのは少し大雑把過ぎるのではないか。スタイルとして整合性は取れているのかもしれないが、これ以外の書き方ができないか。各箇所に「Society5.0」や「SDG s」が入っているが、他との兼ね合いを考えたのか、いろんな可能性があるのでとりあえず入れておいたのか。香美市のプランとして「Society5.0」をどういう側面で生かしていくのか考えていく必要があるのでは。
- 国が推奨する地域課題を解決するための新しい手段であり、Society5.0の中身をどこまで香美市として活用できるのかということがまだはっきりしていない分野である。工科大の先生のお知恵をいただきながら総合戦略の重点化に生かしていきたい。
表記については精査する。
- これから先の補助金獲得の際に活用できるなどの理由から、（具体的な事業）に表記している市町村や文言として入れている市町村もあるとのことである。
これから取り組んでいきたいという目標として表記しているのご理解をいただきたい。
（清原会長）

- ・それぞれの地域で観光資源の特色があり、KPI「主要4施設観光入込客数」の数値もそれぞれの地域の観光施設が目標の要素になっており、前回の質問に対して、「地域の特色を生かした観光振興に取り組み、滞在型の観光ゾーンを形成」や「さらに新たな体験型観光資源を発掘し、活用する活動を支援」などの積極的な回答の内容を観光振興策の中に文章として盛り込めないか。

→調整する。

- ・（具体的な事業）の「体験型観光の推進」の中に組み込まれているのだろうが、説明文には龍河洞のことしか書かれていないので、文章を追加するなど検討をしてもらったら。

- ・KPI「体験型観光入込客数：R6年 134,000人」「主要4施設観光入込客数：R6年 300,000人」
県の産業振興計画の地域アクションプランの龍河洞入込客数の目標数値と乖離がある。龍河洞保存会や龍河洞みらいの目標数値とも離れた低い設定なので見直しをしたらどうか。

→刷り合わせを行う。

○「③創業支援」

- ・「高知県版Society5.0」は注釈なしで一般の方が見て理解できるか。

→県の産業振興計画の中で展開しているキーワードで、注釈などわかりやすい表記に努める。

・「光通信」は光通信網のことで、ITに包括されているのでは。

「光通信」という企業があり、企業名をそのまま謳っていると誤解されるのでは。

→ITは情報技術を指し、ICTは情報通信技術なので、ここはICTでも良いが、第1期の「光通信」を踏襲した方が良いと思われるので、「光通信技術や最新ITを活用した」が良いのでは。（岩田委員）

・（具体的な事業）「土佐まるごとビジネスアカデミー（土佐フードビジネスクリエーター人材創出事業等）」は「土佐まるごとビジネスアカデミー・土佐フードビジネスクリエーター人材創出事業等）」ではないか。

→土佐フードビジネスクリエーター人材創出事業は土佐まるごとビジネスアカデミーの中の事業なので、この表記で間違いない。

○横断的な目標「多様な人材の活躍を推進する」

・考え方として「多様な人材の活躍を推進する」を入れたが、具体的な目標には出てきていない。国の総合戦略には「女性・高齢者等の活躍による新規就業者の掘り起こしによる起業・就業者数」が、4年間の累計で20万人という数値目標が出ている。このことも反映して、「③創業支援」に国の目標を入れて、各地域の集落活動センターでの就業者数などを拾って「5年間で20人」などの数値目標を挙げられないか検討いただきたい。

・現場では人手が足りず、女性や高齢者をもっと活用できるような条件作りや掘り起こしなどは、地域の活力を生かす面でも大変大事な視点なので、地域づくりである基本目標4の《基本的方向》に「多様な人材の活躍を推進する」を具体的な言葉で入れた方が良いでしょう。「近隣集落や外部人材（学生等）と連携して集落維持活性化に取り組む事業を推進する」は、集落活動センターの事業や地域の集落営農や工科大生などとの連携も考えられた文言と思われ、例えば「近隣集落や外部人材（学生等）と連携して女性・高齢者等誰もが活躍できる地域づくりを進めると共に集落維持～」と入れると、特に山間部の我々のような地域では国が打ち出しているものがひしひしと感じられる状況なので、視点がはっきりする。集落活動センター事業はかなり広範な取組が可能で、地域の自主性を生かした事業であり、明確に言葉で入れておくと、そういう視点で事業を進められる。

→数値目標の設定も含めて、どちらの基本目標に入れ込むか検討する。

<基本目標4>

○P16KPI「高知工科大学実習生の受入」

・なぜ「4名以上」ではなく「4名」なのか。

→理由は特になく、市役所以外の受入もカウントする予定で「4名以上」でかまわない。

○本日審議いただいた事項を踏まえて、若干の調整をしたものをこの委員会の答申案とし、議員協議会、市長決裁を経て決定の予定となります。

委員の皆様におかれましては、次年度以降も本総合戦略における各種の事業の進捗管理についてもお願いすることとしており、引き続きご協力いただきますようよろしくお願いいたします。（佐竹企画財政課長）